授業科目	タウンマネジメント論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	角谷　尚久						
授業概要	タウンマネジメントに関する基礎的理解を促すとともに、学生の視点から身近なまちづくり（大学の地域交流・貢献）への関心を高める。背景となる地域社会とコミュニティについて解説したうえで、グループワークにて身近な地域での具体の活動テーマについて考察する。講義とグループワークなどの演習形式とを組合わせる。 尚、授業においては視聴覚教材を利用する場合、並びに外部講師による講義を行う場合がある。 本科目は講義形式にて行うがアクティブラーニングの手法を取り入れ、毎講義ごとにレスポンスシートの提出を求める。 又、学生の習熟度や授業の進行状況によりシラバスを変更する場合がある。						
授業形態	講義			授業方法	対面授業およびグループワークによるプレゼンテーション ICT を活用し、Google クラスルームによる理解促進並びに自主学習支援を行う		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	①地域社会とコミュニティとのあり方について基礎的事項を理解できる。 ②「タウンマネジメント」について基礎的事項を理解し、説明することができる。 ③「大学の地域交流・貢献（COC+）」について概況を理解し、意見を述べることができる。 ④グループワークにおいて自身の意見を反映させ、発表することができる。 地域社会の課題を把握するための手法を身につけ，それを用いて解決策について考えることができる。
理想的レベル	自ら進んで地域社会の課題を把握し，その解決策について提案できる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）	40%	
レポート外の提出物	30%	
その他	30%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	T031505J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
シラバスの確認（復習）	4

授業計画	
第 1 回	オリエンテーション シラバスの内容、講義の進め方、受講上の注意の説明

第 2 回	商業まちづくりについて（1） １９７０年から１９９０年代中盤まで
第 3 回	商業まちづくりについて（2） １９９０年代中盤以降
第 4 回	商業まちづくりについて（3） 新たな取り組み
第 5 回	タウンマネジメントの定義について
第 6 回	海外の事例研究（1） アメリカの BID と財源
第 7 回	海外の事例研究（2） イギリスの BID と財源
第 8 回	海外の事例研究（3） ドイツの BID と財源
第 9 回	大学の地域交流・貢献（COC+）について
第 10 回	タウンマネジメントの課題について
第 11 回	具体的事例の考察（1） グループワークでの事例検索
第 12 回	具体的事例の考察（2） グループワークでの事例決定
第 13 回	具体的事例の考察（3） グループワークでの事例考察
第 14 回	具体的事例の考察（4） 発表に向けての考察のまとめ
第 15 回	グループワーク成果の発表、授業の総括
テキスト	毎回資料を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義全般にかかわるような参考書はなかなか見当たらないのですが，自分の関心のある地域での，行政の「総合計画」や事業紹介のパンフレットなどは重要な資料になると思います。そのほか，用語解説が中心になりますが，参考文献として以下のものを挙げておきます。 ・　阿部　斎ほか　2005.『地方自治の現代用語　第 2 版』学陽書房 ・　増田　正ほか編　2011.『地域政策学事典』勁草書房 その他の参考図書については，講義中に紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	その他の項目は授業態度、積極性などで評価します。 成績発表後に評価点分布図を提示する。
学生へのメッセージ・コメント	日頃から新聞、雑誌、メディア情報等を通して地域・社会の現状に広く関心を寄せること。 他の受講学生に迷惑となる行為を慎むこと。 後半はグループワーク形式にて演習を行うため、積極的に参画すること。